

CONTEMPORARY ISSUES ON DRUGS

薬物に関する現代の課題



W	O	R	L	D	2
D	R	U	G	4	



**CANNABIS AND PSYCHEDELICS:
DEVELOPMENTS IN REGULATORY
CHANGES AND IN THE ENVIRONMENT
ENABLING NON-MEDICAL USE OF
CONTROLLED SUBSTANCES**

大麻と**幻覚剤**：

管理物質（薬物）に対する規制の変化と非医療的
使用を可能にする環境の新しい展開

© United Nations, June 2024. All rights reserved worldwide.

This publication may be reproduced in whole or in part and in any form for educational or non-profit purposes without special permission from the copyright holder, provided acknowledgement of the source is made. The United Nations Office on Drugs and Crime (UNODC) would appreciate receiving a copy of any publication that uses this publication as a source.

Suggested citation:, UNODC, World Drug Report 2024 (United Nations publication, 2024).

No use of this publication may be made for resale or any other commercial purpose whatsoever without prior permission in writing from UNODC. Applications for such permission, with a statement of purpose and intent of the reproduction, should be addressed to the Research and Trend Analysis Branch of UNODC.

DISCLAIMER The content of this publication does not necessarily reflect the views or policies of UNODC or contributory organizations, nor does it imply any endorsement.

Comments on the report are welcome and can be sent to: Research and Trend Analysis Branch
United Nations Office on Drugs and Crime PO Box 500 1400 Vienna Austria E-mail:
wdr@un.org

Website: <https://www.unodc.org/unodc/en/data-and-analysis/world-drug-report-2024.html>

まえがき

薬物の製造と不正取引における主要な進展を掘り下げ、薬物使用のパターンと関連する害を調査した UNODC の Flag Ship である World Drug Report の 2024 年版を発表できることを誇りに思います。

この包括的な World Drug Report の 2024 年版は、世界の薬物問題の絶え間なく進化する課題を明らかにし、違法な麻薬取引に関連する苦しみ、死、暴力の厳しい現実を描いています。

組織犯罪グループは、法の支配の不安定性とギャップを利用して薬物不正取引活動を拡大し、脆弱な生態系に損害を与え、人身売買などの他の形態の組織犯罪を引き起こしています。コカインの生産量は過去最高に達しており、ラテンアメリカでの生産量の増加に加え、ヨーロッパ、アフリカ、アジアでの薬物使用や市場の拡大も相まって、過去最高を記録しています。また、南西アジア、中近東、南東ヨーロッパでの覚醒剤・アンフェタミン不正取引の増加や、北米でのフェンタニルの過剰摂取など、合成薬物が人々やコミュニティに大きな害を及ぼしています。一方、アフガニスタンでは、事実上の当局があへん禁止令を発令した。これは、農民の生活や収入に大きな影響を与えており、持続可能な人道的対応が求められています。

今年の World Drug Report は、アフガニスタンでのあへん禁止の影響、薬物障害治療へのアクセスが限られている女性の間での合成薬物の無作為使用、ゴールドントライアングルにおける薬物取引と組織犯罪との関連性、大麻と幻覚剤に関する規制と立法の変更の概要に特化した特別な章を特集しています。

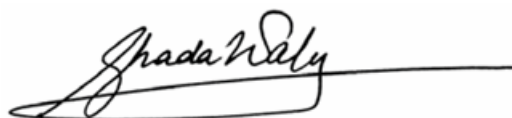
この World Drug Report の 2024 年版には、初めて健康と薬物使用の権利に関する章も含まれており、この権利の実現と進捗状況の評価に関する将来の議論の出発点となることを願っています。世界の薬物問題の影響を受けたあまりにも多くの人々、特に薬物使用に対する偏見や差別に直面し続けている女性たちが、健康への権利を否定されています。健康への権利はすべての人に普遍的であり、薬物を使用する人々は、コミュニティのすべてのメンバーとともに、その権利を享受しなければなりません。これは、包括的で、効果的で、自発的で、すべての人が差別なく利用でき、人々の尊厳を守る薬物治療、ケア、サービスを提供することを意味します。

World Drug Report の 2024 年版は、健康介入と並行して、違法薬物市場を対象としたより戦略的な司法介入を求めています。最新のデータによると、700 万人が薬物関連の犯罪で法律に触れていましたが、その 3 分の 2 は薬物使用または使用のための所持でした。司法の対応は、麻薬取引を煽る上で重要なトップレベルのアクターに焦点を当て、麻薬使用者の治療を支援しながら、取引業者に責任を負わせようとしている必要があります。

さらに、薬物経済を解体するための長期的な取り組みは、単に違法な作物や収入を代替えするだけでなく、貧困、開発不足、不安定さなど、違法な作物栽培の背後にある根本的

な構造的原因に対処する社会経済的機会と代替手段を提供する必要があります。

また、合成薬物使用のリスクが特に高い若者を薬物取引に引き入れる要因にも絞らなければなりません。これらのパターンと傾向に光を当てると、この World Drug Report の 2024 年版が、政策立案者、研究者、およびすべての利害関係者が、世界の薬物問題によってもたらされる課題に対処するための政策対応を形成し、行動を動員するための重要なリソースと証拠基盤として機能することを願っています。

A handwritten signature in black ink, reading "Ghada Waly", with a long horizontal line extending to the right.

Ghada Waly, Executive Director
United Nations Office on Drugs and Crime

04 第4章 その2

幻覚剤（サイケデリックス）をめぐる展開

LSD、MDMA、メスカリン、シロシビンなど、現在知られている幻覚剤のほとんどは、科学研究目的での使用の可能性や、非常に限定的な医療用途の可能性を担保するために、1971年条約ではスケジュールIの下で規制されている物質である^{108, 109}。これらの薬物に関して、さまざまな精神疾患の治療のためその医療的使用に新たな関心が寄せられている^{110, 111, 112}。

比較的最近の臨床試験の波は、主に高所得国で行われている。そこでは従来の治療に耐性のあるさまざまな精神障害を治療するために一部の幻覚剤を心理療法と組み合わせて使用する可能性について検討が行われ、早期的なものではあるが、やや有望な結果が示されている^{113, 114}。しかし、まだ、どの国でも幻覚剤の医療市場での承認はなく¹¹⁵、多くの臨床試験は一般的に市場承認に至っていない。2024年2月現在、MDMA、シロシビン、LSD、ケタミンを含むさまざまな幻覚剤治療薬について、さまざまな開発段階の臨床試験が1,000件以上登録されている。しかし、初期の結果にもかかわらず、人々のスクリーニングや幻覚剤投与の促進と監督を含む治療ガイドラインの開発、そのような治療法についての法規制、そして医療行為に統合されるまでにはまだ長い道のりがある。それにもかかわらず、米国連邦医薬品局(FDA)は、2017年にPTSDの治療のためのMDMA支援心理療法に画期的治療薬の指定を与え¹¹⁷、2024年には、主要な抑圧性障害の補助治療のためのシロシビン類似体¹¹⁸と、全般性不安障害を治療するためのLSDの一種に、画期的な治療指定を与えた¹¹⁹。

幻覚剤を含む臨床試験に関する最近の2つの文献レビューでは、そのような臨床試験の実施についていくつかの課題が指摘され、懸念が表明されていることに注意する必要がある。これらの懸念には、サンプルサイズが小さい、対照群が存在しない、研究参加者の選択に偏りがある、研究期間が短い、有害事象に関する情報が欠落しているなどが含まれる^{120, 121}。

最近、米国食品医薬品局(FDA)の専門家諮問委員会も、MDMAの最近の第3相試験について同様の懸念を表明し、二重盲検の問題や、フォローアップ治療の乱用、保護措置、有効性についての透明性の欠如など、試験におけるバイアスの可能性に関する問題を強調している。また、最近生じたもう一つの懸念は、医薬品規制当局が、医薬品や医薬品を承認する権限を超えて、薬物療法を利用した心理療法を承認できるかどうかというものである。このことは、医学療法の複雑さと制約を浮き彫りにしている。最終的には実験から始まり、医学的に承認されるという正式な医薬品規制の文脈の外側で、医学的利益とされるものとして使用される幻覚剤の並行市場を開く可能性がある。

幻覚剤の治療的利用の可能性は商業的な関心と投資を煽っており、ベンチャーキャピタル企業は投資と利益の機会を見出しており、それは個々の組織や業界から資金提供を受ける臨床試験の数が増えていることから観察できる。幻覚剤への商業的関心は、他の分野で

も、より広範な開発、すなわち「幻覚剤・ルネッサンス」^{122, 123}の一部として見られており、これは、幻覚剤への監視されないアクセスを可能にする環境を作り出している。

幻覚剤による治療効果の有望性は魅力的かもしれないが、商業化、一部の法域における規制の変更、および非医療使用の実践に関する過度に急速な展開は、適切なスクリーニング、促進、監督を含む幻覚剤に対する慎重な治療的使用を短絡させる可能性があり、このことが、「新しい」クラスの薬による治療法の開発に関連して実施される通常の臨床研究の質と厳密さに悪影響を与える可能性がある」と主張されている^{124, 125}。

幻覚剤に関する臨床研究、2024				
臨床研究のPhase				
	Phase 1	Phase 2	Phase 3	Phase 4
LSD	20	20	3	0
MDMA	30	34	6	1
Psilocybin	54	82	5	0
Ketamine	176	275	214	383

資金支援				
	米国NIH	米国連邦機関	企業	大学/団体組織
LSD	1	0	15	21
MDMA	0	5	24	21
Psilocybin	7	0	27	112
Ketamine	48	35	121	821

Source: ClinicalTrials.gov.
 Note: The table includes trials being conducted in various countries, mostly in high-income countries.

幻覚剤をめぐる規制の変更

最近の政策変更により、オーストラリアとカナダのケベック州、および米国の2つの管轄区域で、医療用の幻覚剤へのアクセスが容易になった。オーストラリアは、シロシビンとMDMAの医療使用が認められた最初の国となった。2023年7月現在、認定された精神科医は、PTSDの監督下治療のためにMDMAに、また治療抵抗性うつ病の治療のためにシロシビンにアクセスできるようになった。しかし、いまだにサプライチェーンの仕組みは開発されておらず、オーストラリアの多くの関係者は、国内での幻覚剤の広範な臨床実施を裏付ける証拠が不十分であると意見を述べている。2022年には、カナダのケベック州でシロシビン支援心理療法の治療のための健康保険が承認された¹²⁸。

2020年、米国オレゴン州は、サプライチェーンの規制やシロシビン製品の小売販売・購入など、シロシビンの「準治療的」使用を承認した。その結果、21歳以上であれば誰でも、精神疾患の診断の有無にかかわらず、「監視付き」の環境でシロシビンを摂取できるようになった。シロシビン・サービスを利用するためには、処方箋や紹介は必要ないが、シロシビン・サービスの提供を州が認可した施設でシロシビンを服用する前に、訓練を受けた指導者（ファシリテーター）¹²⁹との準備セッションを完了する必要がある^{130、131、132}。2022年、コロラド州は、21歳以上の個人による5つの天然幻覚剤物質の販売を除く、個人所有、栽培、共有、使用を「非犯罪化」し、認可された施設での使用を承認した。また、2026年までにDMT、イボガイン、メスカリンを含むように許可される物質の種類を拡大する計画を示した¹³³。

監視された医療使用を超えて 幻覚剤の使用を可能にする環境

「幻覚剤・ルネッサンス」の中には、臨床試験を超え、また先住民コミュニティによる伝統的な使用とは異なる他の開発が行われている。マイクロドージング¹³⁴ コミュニティ、幻覚剤カンファレンス、フェスティバル、リトリート（瞑想/内省）などはすべて、幻覚剤の非医療使用を可能にする環境の展開に寄与している。これらの展開のほとんどは、その目指すところとその範囲において前例のないものであり、科学的な発展や、管理された環境での監督された幻覚剤支援療法の一部として投与された場合の有効性の証拠を超えるものである。

「幻覚剤・ルネッサンス」は、科学研究の結果を見越して、監督付きまたは監督なしのケアの下での幻覚剤の使用を促進することを目的とした、特に金融投資を通じた幻覚剤開発の商業化が推進力となって支えている^{135、136、137}。2020年3月までに、米国では幻覚剤の開発または管理に関連する上場企業が50社以上ある¹³⁸。米国の幻覚剤業界は、2020年の企業評価額から5倍に増加すると予測されており、幻覚剤物質の分野への持続的な投資関心を示している。幻覚剤の研究に資金を提供したり、研究を行ったりした初期の非営利団体の一部は公開企業となり、現在では外部投資を受け入れている。近年、幻覚剤に対する商業的および一般の関心が高まっているもう一つの例は、幻覚剤統合トレーニングプログ

ラム、ワークショップ、紹介ネットワークの急増、および幻覚剤の臨床試験への登録を多くの人々が志願していることである¹⁴¹。

幻覚剤の監督なし(または非医療的)使用:マイクロドーズコミュニティ

マイクロドーズ(幻覚剤物質の知覚以下の低用量を使用する方法)は、そのポジティブな効果についての使用者からの初期の報告や臨床研究の予備的な発見に促されて、メンタルヘルスとウェルビーイングへの潜在的な利点が認識されたため、近年ますます注目を集めている¹⁴²。

しかし、マイクロドージングの利点に関する研究では、さまざまな異なった結果が示されている。人々の自己報告に関する観察的または定性的研究は、マイクロドージングの有効性に対する彼らの満足度を示しているが、ランダム化比較試験は臨床的に有意な効果を示していない。いくつかの研究では、微量投与が気分の改善、ストレスの軽減、創造性の向上につながる可能性があることが示されているが¹⁴³、LSDとシロシビンの微量投与を含む最近の大規模な無作為化比較試験では、抗うつ薬や抗不安薬としての効果や認知促進効果は示されていないか、最適ではない結果が示されている^{144 145 146}。

最近の研究では、マイクロドーズ研究、特に自己盲検化市民科学イニシアチブを含む研究において、参加者が自分自身を無作為にプラセボ群または対照群に割り当てる研究におけるバイアスの可能性も強調されている;そのような参加者は、「期待」バイアスの影響を受けやすく、偽陽性の所見を与えるリスクが高く、したがって研究結果に影響を与えるため、治療の効果に関する自分自身の評価に不注意に影響を与える可能性がある。全体として、幻覚剤物質を最小限の用量で繰り返し使用する慣行については、まだ研究されておらず、その有効性や安全性に関する臨床的証拠は限られている^{149、150、151、152}。

さまざまな知見があるにもかかわらず、マイクロドージングの実践はますます人気が高まっているようである。ヨーロッパ、南北アメリカ、オセアニアのインターネットユーザーが過度に多いことを特徴とする11万人以上の便宜的サンプルに基づくオンライン調査では、回答者の5.6%が2020年の過去12ヶ月間にLSDまたはシロシビンのいずれかを使用してマイクロドーズを行ったことがあることがわかった。その結果、LSDによる微量投与を報告した人は、2018年と比較して80%増加した(2018年は3.9%、2020年は2.2%)¹⁵³。2020年にマイクロドーズを行った回答者の大多数(55%)は、診断された精神疾患や特定の心配や懸念(精神的苦痛)の自己治療のために特別にマイクロドーズを行ったと報告し、残りの回答者は一般的な健康状態を改善するためにのみマイクロドーズを行ったと報告した。

マイクロドーズの性質に関する研究では、特に、長期にわたるマイクロドージングや反復的なマイクロドージングに関連する潜在的なリスクと、監督下使用または幻覚剤支援療法いずれかの文脈で数週間または数ヶ月間隔で投与されるいくつかの「マクロドーズ」によってもたらされるより限定的な生理学的安全性リスクとを区別するために、実践に対する慎重なアプローチが求められてきた¹⁵⁴。

幻覚剤会議（カンファレンス）

参加者の体験なども含めて、幻覚剤に関連するトピックに関して多数の会議が開かれていることも、幻覚剤の多様性を示し、またそれについての関心が高まっていることを示している。これらの会議は、科学研究だけでなく、幻覚剤の使用に関するより広範な文化的、哲学的、精神的な側面も網羅するものである。これらのトピックに特化した会議の数の増加は、幻覚剤がかつて直面していた偏見や周縁性から離れ、人々の幸福に対する潜在的な影響についてのオープンな対話の対象へのシフトを意味している¹⁵⁵。この急成長する関心は、幻覚剤が監督下での治療的使用を超えて、個人やコミュニティにとっての潜在的な利点に関して、さらなる主流化と探求を促している¹⁵⁶。

2023 年だけでも、UNODC は幻覚剤に関する主要な会議を合計 35 件特定し、そのうち 14 件は専門家(通常は学術的な性質のもの)を対象としていた。8 つは、幻覚剤への商業的関心によって動機付けられるものであり、サイケデリックな「起業家精神」、あるいは新しい幻覚剤の開発とその経済的影響をテーマに組織されたものであった。

他の 13 の会議は、幻覚剤とその潜在的な治療効果に共通の関心を持つ、はるかに幅広い聴衆を対象としたものであった。そのような会議の 1 つには、52 カ国からの 500 人の教育者を含む 12,000 人以上が参加し、「文化的、医学的、伝統的な環境における幻覚剤への期待」に焦点を当てた 30 のワークショップを提供した。「マインドフルネス」、「自己実現」、「セルフケア」、その他は性別に焦点を当てたものや、メンタルヘルス障害を持つ人々が幻覚剤の潜在的な治療効果について学ぶための出会いの場となっていた。一般大衆を対象とした会議の中心となるのは、体験主導のグループであり、彼らのアイデンティティはしばしば彼らの幻覚剤な物質の使用と彼らの瞑想的な実践から導き出されたものであった。

幻覚剤コミュニティ

幻覚剤な儀式やリトリート（瞑想/内省）は、幻覚剤の精神活性効果を調節する上での文脈的要素(いわゆる「セットとセッティング」)の重要性を強調している¹⁵⁸。幻覚剤コミュニティは、幻覚剤の使用と音楽や儀式の影響を通じて心理的な幸福と社会的つながりを促進していると報告されている。これは、グループ設定が相互関連性と共有経験の感覚を促進することにより幻覚剤の効果を高めることができるという前提に基づいている。これらのコミュニティは新しい現象ではないが、医学的・科学的文脈から外れた新しい臨床研究に頼った幻覚剤物質の使用の合理化、つまり、より広範な商業的利益によってしばしば動機づけられる科学からの脱文脈化現象が最近現れている^{162、163、164}。

幻覚剤をテーマにしたフェスティバル:変容するフェスティバル

会議やコミュニティの範疇を超えて行われる、幻覚剤をテーマにしたフェスティバルは、「トランスパーソナリズム」、「集団エクスタシー」、「マインドフルネス」、「スピリチュアルヘルス」を目的とした幻覚剤コミュニティが集まる他の場所として機能している^{165、166}。

167。幻覚剤をテーマにしたフェスティバルには長い歴史があり、少なくとも1960年代にまでさかのぼるが、幻覚剤物質のプラスの影響を認識することをその特徴として強調する新しい種類のフェスティバルがある。共通の興味や信念に基づくコミュニティの構築を中心に、音楽、芸術、幻覚剤物質の交絡を提供する変革的なフェスティバルは、参加者のスピリチュアリティに関する知識を増やすことを目的としたワークショップやイベントとともに開催される。トランス フォーメーション・フェスティバルが、主に幻覚剤な音楽、アート、コミュニティに焦点を当てた初期のサイトランス・フェスティバルと異なるのは、スピリチュアルな実践、瞑想、ウェルビーイング、マインドフルネス、音楽の主要な要素、幻覚剤の使用を取り入れた、ホリスティックなアプローチと公言していることである。

幻覚剤主導の観光とリトリート（瞑想/内省）

北米、ラテンアメリカ、ヨーロッパにまたがるフェスティバルの到達は拡大し、より多くの参加者と参加者を引き付け、幻覚剤ツーリズムに寄与している。この形態の観光は、個人が特定の場所への旅行に出かけたり、構造化されたリトリート（瞑想/内省）に参加して、「共通の信念と興味によって定義される支援的な環境」で幻覚剤物質の精神的、レクリエーション的、治療的要素を探求する旅行の一種として宣伝されているものである¹⁷⁰。

幻覚剤・ツーリズムには、ガイド付きリトリート（瞑想/内省）があり、これは構造化されたプログラムや組織化されたイベントで、幻覚剤な体験に従事するための、臨床的には監視されていないものの、個人を支援する環境を提供している。これらのリトリート（瞑想/内省）は、通常、幻覚剤の使用と、瞑想、グループセラピー、シャーマニズムの儀式などの「準治療的」またはスピリチュアルな実践を組み合わせたもので、指導者（ファシリテーター）の指導の下で個人の成長、自己探求、癒しを促進することを目標とするものである^{171、172}。

これらのリトリート（瞑想/内省）の中心にあるのは、アマゾンとオリノコ盆地に自生し、「シャーマンとフォークヒーラー」によって導かれ勧められる精神活性発酵物であるアヤワスカである。しかし、これらのリトリート（瞑想/内省）は、しばしば先住民の起源から切り離された形で実施されている。さらに、アヤワスカのリトリート（瞑想/内省）やその他の先住民のリトリート（瞑想/内省）が、先住民の精神的な側面や設定ではなく、儀式の精神活性要素に焦点を当て、非先住民の観客に儀式を適応させようとする先住民文化の商業化と植民地化または流用なのである。したがって、これらのリトリート（瞑想/内省）は、先住民の精神性のある側面を強調し、参加者のニーズに応じて他の側面は放棄する心理療法の様式を持つ幻覚剤の監督されていない「準治療的」使用を確立する手段として機能する傾向がある^{176、177}。

幻覚剤・サイケデリック“ルネサンス”



規制されていない慣行の誤用や幻覚剤乱用のリスクに向けて

幻覚剤の医療利用を促進することは、厳密な科学的証拠に裏打ちされている場合に重要であるが、幻覚剤を使用することの潜在的な健康リスクと利点については、多くの疑問が未解決のままである。「幻覚剤・ルネッサンス」に組み込まれた幻覚剤へのアクセスと使用をめぐる議論は、その実証された治療的使用の領域や臨床研究の結果を超えて進んでいる。この問題に対する一般の関心と民間部門の注目は、幻覚剤がメンタルヘルスと認知機能の改善に効果的であるという現在の科学的証拠に示されているよりも大きくなっている。効果的な医療利用が必要と思われる幻覚剤セラピーの治療環境の条件は、「幻覚剤・ルネッサンス」イベントで提供されるものよりも厳しいものである。幻覚剤がメンタルヘルス障害や全体的な精神的または精神的な健康の「特効薬」であるという認識が、ますます多くの擁護団体や商業的利益によって喧伝されているが、リスクは、これらが、科学的証拠が確立されるよりも速く広がり、監視されていない「準治療的」または精神のおよび娯楽的な使用に市場を開放し、適切なスクリーニングと指導（ファシリテーション）を含む監督された治療的使用の前に、監視されていない「準治療的」または精神のおよび娯楽的な使用に市場を開くことにある。これは、さまざまな環境で幻覚剤な使用のための安全でない市場の展開を引き起こし、その結果、規制されていない慣行の誤用や幻覚剤乱用の固有のリスクを伴う可能性がある。これらのリスクは、ヘロインやコカインなどの多くの精神活性物質の初期開発において、過去 100 年以上にわたって、そのマーケティング、監視さ

れていない自己投薬、および非医療的使用に関連して観察されてきたことである^{178、179}。

幻覚剤に関連する展開のほとんどは、西洋諸国で行われている、あるいは参加者は主に西洋諸国から来て行われている。他の薬物と同様に、幻覚剤の非医療的使用は裕福なコミュニティで拡大し始めるかもしれないが、それがより定着し、貧困層、疎外された人々、マイノリティグループに広がると、集合的な害が増加する可能性がある。このようなグループは、しばしば公平性の問題に直面し、有害な結果を防ぐために必要な社会資本やリソースを持っていない可能性があるため、有害な物質（薬物）の使用、物質（薬物）使用障害、薬物サービスへのアクセス制限などの高い割合の矢面に立たされる可能性がある¹⁸⁰。

幻覚剤と大麻の展開は医療領域外で進んでいるように見えるが、二つには、いくつかの類似点と相違点がある。大麻については、北米で始まった医療・非医療用途の規制変更のきっかけが、ゆっくりとではあるが、西ヨーロッパなどにも広がっている。大麻と幻覚剤の両方について、商業的利益とメディアは、多くの国で一般の人々の間でその利点に対する認識を増加させる一方、そのリスクについての認識の低下を促進させており、それが擁護団体からの圧力と相まって、両方の物質の規制変更に影響を与えた可能性が最も高い。しかし、幻覚剤の潜在的な治療効果や、全体的な実現環境を促進する展開に対する全体的な関心は、急速に高まっているようである。この章で議論されているような明らかに関連性のない両者の本質的な動きの違いを見落とすと、商業大麻市場の発展と同様に、幻覚剤物質の商業的、営利目的のサプライチェーンメカニズムの開発が加速する可能性がある^{181、182、183、184、185、186}。

一つの大きな違いは、非医療用途のための大麻を合法化または規制するプロセスは、主に娯楽的使用の許容化によって推進されてきた一方で、幻覚剤を合法化したり、幻覚剤を規制解除したりする動きは、メンタルヘルス、マインドフルネス、スピリチュアリティと全体的なウェル・ビーイングなどの全体的な領域内での監督されていない治療的使用への欲求によってより動機づけられていることである。

主要なメンタルヘルス障害とウェル・ビーイングの解決策として幻覚剤を強調する商業的利益団体や擁護団体による圧力は、現在および将来の臨床試験の結果にも影響を与える可能性があり、治療上の利点、使用、および実践を決定するための厳密な科学研究の権威を損なう可能性がある^{187、188}。幻覚剤の規制されていない、または規制が不十分な非医療的な商業的供給は、幻覚剤の使用に関連する健康リスクを最小限に抑えながら、健康、社会福祉、生活の質を改善するという公衆衛生上の目標を損なう可能性がある。

108 ‘The International Drug Control Conventions: Schedules of the Convention on Psychotropic Substances of 1971, as at 13 November 2023’ (United Nations, 2023).

109 GBD 2019 Mental Disorders Collaborators, ‘Global, Regional, and National Burden of 12 Mental Disorders in 204 Countries and Territories, 1990–2019: A Systematic Analysis

- for the Global Burden of Disease Study 2019', *The Lancet Psychiatry* 9, No.2, February 2022.
- 110 See UNODC, 'World Drug Report 2023: Booklet on Contemporary Issues on Drugs', 2023. Chapter 2 recent developments involving psychedelics.
- 111 Hadar et al., 'The Psychedelic Renaissance in Clinical Research'.
- 112 Kenneth W. Tupper et al., 'Psychedelic Medicine: A Re-Emerging Therapeutic Paradigm', *Canadian Medical Association Journal* 187, no. 14 (6 October 2015): 1054–59.
- 113 UNODC, 'World Drug Report 2023: Booklet on Contemporary Issues on Drugs'.
- 114 Elliot Marseille, Stefano Bertozzi, and James G. Kahn, 'The Economics of Psychedelic-Assisted Therapies: A Research Agenda', *Frontiers in Psychiatry* 13 (5 December 2022): 1025726.
- 115 The process of reviewing and assessing the evidence to support a medicinal product in relation to its marketing, finalized by the granting of a licence to be sold.
- 116 Joshua Phelps, Ravi N. Shah, and Jeffrey A. Lieberman, 'The Rapid Rise in Investment in Psychedelics—Cart Before the Horse', *JAMA Psychiatry* 79, no. 3 (1 March 2022): 189.
- 117 Allison A. Feduccia et al., 'Breakthrough for Trauma Treatment: Safety and Efficacy of MDMA-Assisted Psychotherapy Compared to Paroxetine and Sertraline', *Frontiers in Psychiatry*, 12 September 2019.
- 118 Diana Ernst, 'Psilocybin Analog Gets Breakthrough Tx Status for Major Depressive Disorder', *MPR*, 13 March 2024.
- 119 Ken Terry, 'FDA Opens the Door to Clinical Use of LSD', *WebMD*, n.d., accessed 11 April 2024.
- 120 Oliver Rumle Hovmand et al., 'Risk of Bias in Randomized Clinical Trials on Psychedelic Medicine: A Systematic Review', *Journal of Psychopharmacology* 37, no. 7 (July 2023): 649–59.
- 121 Michiel Van Elk and Eiko I. Fried, 'History Repeating: Guidelines to Address Common Problems in Psychedelic Science', *Therapeutic Advances in Psychopharmacology* 13 (January 2023).
- 122 Apparently, the term psychedelic renaissance was first coined by psychiatrist Dr. Ben Sessa in his book *The Psychedelic Renaissance: Reassessing the Role of Psychedelic Drugs in 21st Century Psychiatry*, which was first published in 2012. Since then, the term has been used in major magazines, newspapers, books and scientific papers describing the scientific developments as well as on the experiences of people who had psychedelic trips, or the broader psychedelic movement.
- 123 See also Witt, 'The Psychedelic Renaissance'.
- 124 Phelps, Shah, and Lieberman, 'The Rapid Rise in Investment in Psychedelics—Cart

- Before the Horse’.
- 125 Suresh Muthukumaraswamy, Anna Forsyth, and Rachael L Sumner, ‘The Challenges Ahead for Psychedelic “Medicine”’, *Australian & New Zealand Journal of Psychiatry* 56, no. 11 (November 2022): 1378–83.
- 126 Therapeutic Goods Administration (TGA), ‘MDMA and Psilocybin Hub’, text (Therapeutic Goods Administration (TGA), 13 February 2023).
- 127 Breanne Kunstler et al., ‘“We Don’t Want to Run before We Walk”: The Attitudes of Australian Stakeholders towards Using Psychedelics for Mental Health Conditions’, *Public Health Research & Practice* 33, no. 3 (September 2023).
- 128 A. J. Herrington, ‘Quebec Approves Health Coverage For Psilocybin Therapy’, *Forbes*, n.d., accessed 11 April 2024.
- 129 The certification programmes for facilitators are open to anyone who has a high school diploma and has passed a background check.
- 130 Oregon Health Authority, ‘Oregon Health Authority: Oregon Psilocybin Services - Access Psilocybin Services: Prevention and Wellness: State of Oregon’, March 2023.
- 131 State of Oregon, ‘Psilocybin 101: What to Know about Oregon’s Psilocybin Services’, *Oregon Health News Blog*, 12 April 2023.
- 132 Oregon, ‘Oregon Revised Statutes, Chapter 475A (Psilocybin Regulation).’ (2020).
- 133 ‘Colorado Proposition 122, the Decriminalization, Regulated Distribution, and Therapy Program for Certain Hallucinogenic Plants and Fungi Initiative’ (2022).
- 134 Practice of using low sub-perceptual doses of psychedelics substances.
- 135 Jacob S. Aday et al., ‘Psychedelic Commercialization: A Wide-Spanning Overview of the Emerging Psychedelic Industry’, *Psychedelic Medicine* 1, no. 3 (1 September 2023): 150–65.
- 136 Phelps, Shah, and Lieberman, ‘The Rapid Rise in Investment in Psychedelics—Cart Before the Horse’.
- 137 Rotem Petranker, Thomas Anderson, and Norman Farb, ‘Psychedelic Research and the Need for Transparency: Polishing Alice’s Looking Glass’, *Frontiers in Psychology* 11 (10 July 2020): 1681.
- 138 Phelps, Shah, and Lieberman, ‘The Rapid Rise in Investment in Psychedelics—Cart Before the Horse’.
- 139 *Ibid.*
- 140 For example, the non-profit Multidisciplinary Association for Psychedelics Studies (MAPS) rebranded its pharmaceutical arm into a private for-profit company and raised \$100 million from the sale of preferred stocks to private investors in January 2024. Source: ‘Psychedelic Therapy Developer MAPS PBC Closes \$100M Series A, Rebrands as Lykos

- Therapeutics', BioSpace, 10 January 2024.
- 141 Brian Pilecki et al., 'Ethical and Legal Issues in Psychedelic Harm Reduction and Integration Therapy', *Harm Reduction Journal* 18, no. 1 (7 April 2021): 40.
- 142 Lindsay P. Cameron, Angela Nazarian, and David E. Olson, 'Psychedelic Microdosing: Prevalence and Subjective Effects', *Journal of Psychoactive Drugs* 52, no. 2 (14 March 2020): 113–22.
- 143 Vince Polito and Paul Liknaitzky, 'The Emerging Science of Microdosing: A Systematic Review of Research on Low Dose Psychedelics (1955–2021) and Recommendations for the Field', *Neuroscience & Biobehavioral Reviews* 139 (August 2022): 104706.
- 144 Balázs Szigeti et al., 'Self-Blinding Citizen Science to Explore Psychedelic Microdosing', *eLife* 10 (2 March 2021): e62878.
- 145 Nadia R.P.W. Hutten et al., 'Mood and Cognition after Administration of Low LSD Doses in Healthy Volunteers: A Placebo Controlled Dose-Effect Finding Study', *European Neuropsychopharmacology* 41 (December 2020): 81–91.
- 146 Kelan Thomas, 'Safety First: Potential Heart Health Risks of Microdosing - Bill of Health', *Public Health, Scientific Evidence, A Macro View of Microdosing, Pharmaceuticals*, (Bill of Health, 13 April 2022).
- 147 Balázs Szigeti et al., 'The Difference between "Placebo Group" and "Placebo Control": A Case Study in Psychedelic Microdosing', *Scientific Reports* 13, No. 1 (26 July 2023): 12107.
- 148 Szigeti et al., 'Self-Blinding Citizen Science to Explore Psychedelic Microdosing'.
- 149 Martin Andersson and Anette Kjellgren, 'Twenty Percent Better with 20 Micrograms? A Qualitative Study of Psychedelic Microdosing Self-Rapports and Discussions on YouTube', *Harm Reduction Journal* 16, No. 1 (December 2019): 63.
- 150 Peter Grinspoon, MD, 'The Popularity of Microdosing of Psychedelics: What Does the Science Say?', *Harvard Health*, 19 September 2022.
- 151 Thomas Anderson et al., 'Microdosing Psychedelics: Personality, Mental Health, and Creativity Differences in Microdosers', *Psychopharmacology* 236, no. 2 (February 2019): 731–40.
- 152 Vince Polito and Richard J. Stevenson, 'A Systematic Study of Microdosing Psychedelics', ed. Danilo Arnone, *PLOS ONE* 14, No. 2 (6 February 2019): e0211023
- 153 Sifan Cao, Cheneal Puljević, and Jason Ferris, 'Insights into Psychedelic Microdosing from the Global Drug Survey' (Centre for Health Services Research, The University of Queensland, 20 December 2021).
- 154 The Petrie-Flom Center Staff, 'Safety First: Potential Heart Health Risks of Microdosing - Bill of Health', 13 April 2022.
- 155 Alan K. Davis et al., 'Attitudes and Beliefs about the Therapeutic Use of Psychedelic

- Drugs among Psychologists in the United States', *Journal of Psychoactive Drugs* 54, no. 4 (8 August 2022): 309–18.
- 156 See for instance the list and description of events related to Psychedelic Science 2023: Full Schedule
- 157 'Conferences That Captivate: Psychedelic Science 2023', BizBash, 13 November 2023.
- 158 H. Kettner et al., 'Psychedelic Communitas: Intersubjective Experience During Psychedelic Group Sessions Predicts Enduring Changes in Psychological Wellbeing and Social Connectedness', *Frontiers in Pharmacology* 12 (25 March 2021): 623985.
- 159 Ibid.
- 160 'Global Psychedelic Society', Global Psychedelic Society, n.d., accessed 29 December 2023.
- 161 Danielle Negrin, 'Psychedelic Societies Empowering Healing Community', no. 2 (2021).
- 162 David B. Yaden, James B. Potash, and Roland R. Griffiths, 'Preparing for the Bursting of the Psychedelic Hype Bubble', *JAMA Psychiatry* 79, no. 10 (1 October 2022): 943.
- 163 Nicolas Langlitz, 'The Making of a Mushroom People: Toward a Moral Anthropology of Psychedelics beyond Hype and Anti-hype', *Anthropology Today* 39, no. 3 (June 2023): 10–12.
- 164 James Davies, Brian A. Pace, and Neşe Devenot, 'Beyond the Psychedelic Hype: Exploring the Persistence of the Neoliberal Paradigm', *Journal of Psychedelic Studies*, 21 September 2023.
- 165 Yula Milshteyn and Moshe Bensimon, 'Exploring the Subjective Experience of Rave Party Participants in Israel Who Consume Psychedelic Drugs: A Qualitative Inquiry', *Harm Reduction Journal* 20, no. 1 (6 December 2023): 176.
- 166 Ryan Stanton | ryanstanton@mlive.com, 'Thousands Attend First-Ever Psychedelic Shroom Festival in Ann Arbor', *mlive*, 19 September 2021.
- 167 See also Kevin Franciotti, 'The Steady Rise of the Trippy Festival', *Vice (blog)*, 19 December 2018.
- 168 See the list of psychedelic festivals in 2023 Best Psychedelic Music Festivals to Check Out in 2023 – Tripsitter.
- 169 Andrew Johner, 'Transformational Festivals: A New Religious Movement?', in *Exploring Psychedelic Trance and Electronic Dance Music in Modern Culture*; ed. Emília Simão, Armando Malheiro Da Silva, and Sérgio Tenreiro De Magalhães (IGI Global, 2015).
- 170 Feyza Alyu Altınok, 'Drugs and Psychedelics in Tourism'; in *Advances in Hospitality, Tourism, and the Services Industry*, ed. Barış Çıvık and Engin Bayraktaroğlu (IGI Global, 2023), 197–223.
- 171 Ralph Metzner, *The Ayahuasca Experience: A Sourcebook on the Sacred Vine of Spirits*

- (Rochester, Vermont: Park Street press, 2014).
- 172 Feyza Alyu Altınok, 'Drugs and Psychedelics in Tourism', in *Critical Social Challenges in the Tourism Industry: Labor, Commodification, and Drugs* (IGI Global, 2023), 197–223.
- 173 Edgar Antonio Estrella-Parra, Julio Cesar Almanza-Pérez, and Francisco Javier Alarcón-Aguilar, 'Ayahuasca: Uses, Phytochemical and Biological Activities', *Natural Products and Bioprospecting* 9, no. 4 (August 2019): 251–65.
- 174 Catherine Halley, 'The Colonization of the Ayahuasca Experience', *JSTOR Daily*, 4 November 2020.
- 175 Lisa Aldred, 'Plastic Shamans and Astroturf Sun Dances: New Age Commercialization of Native American Spirituality', *The American Indian Quarterly* 24, no. 3 (2000): 329–52.
- 176 Evgenia Fotiou, 'The Globalization of Ayahuasca Shamanism and the Erasure of Indigenous Shamanism', *Anthropology of Consciousness* 27, no. 2 (September 2016): 151–79.
- 177 Margit Anne Petersen, Sarah Feldes, and Victor Sacha Cova, 'Ayahuasca Calling: Sacredness and the Emergence of Shamanic Vocations in Denmark and Peru', *Anthropology of Consciousness* 33, no. 2 (September 2022): 255–78.
- 178 United Nations, 'History of Heroin', *Bulletin on Narcotics*, no. 2 (1953).
- 179 Jerrold S. Meyer and Linda F Quenzer, eds., *Psychopharmacology: Drugs, the Brain, and Behavior*, Third edition (Sunderland, MA, U.S.A. : New York, NY, United States of America: Sinauer Associates ; Oxford University Press, 2019).
- 180 UNODC, in *World Drug Report 2020. Booklet 5: Socioeconomic Characteristics and Drug Use* (UN Publications, 2020).
- 181 William R. Smith and Paul S. Appelbaum, 'Two Models of Legalization of Psychedelic Substances', *JAMA* 326, no. 8 (24 August 2021): 697–98.
- 182 Matthew W. Johnson and Roland R. Griffiths, 'Potential Therapeutic Effects of Psilocybin', *Neurotherapeutics* 14, no. 3 (July 2017): 734–40
- 183 Tupper et al., 'Psychedelic Medicine'.
- 184 Robin L Carhart-Harris and Guy M Goodwin, 'The Therapeutic Potential of Psychedelic Drugs: Past, Present, and Future', *Neuropsychopharmacology* 42, no. 11 (October 2017): 2105–13.
- 185 Smith and Appelbaum, 'Two Models of Legalization of Psychedelic Substances'.
- 186 Sean J. Belouin et al., 'Policy Considerations That Support Equitable Access to Responsible, Accountable, Safe, and Ethical Uses of Psychedelic Medicines', *Neuropharmacology* 219 (November 2022): 109214.
- 187 Joshua S. Siegel et al., 'Psychedelics Drug Legislative Reform And Legalization in the US', *JAMA Psychiatry* 80, no. 1 (1 January 2023): 77–83.

188 Beau Kilmer et al., 'Considering Alternatives to Psychedelic Drug Prohibition' (RAND Drug Policy Research Center, 2024) forthcoming publication